

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①	ほぼ全ての利用者の
		②	利用者の2/3くらいの
		③	利用者の1/3くらいの
		④	ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①	毎日ある
		②	数日に1回程度ある
		③	たまにある
		④	ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①	ほぼ全ての家族と
		②	家族の2/3くらいと
		③	家族の1/3くらいと
		④	ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①	ほぼ毎日のように
		②	数日に1回程度
		③	たまに
		④	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①	大いに増えている
		②	少しずつ増えている
		③	あまり増えていない
		④	全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	①	ほぼ全ての職員が
		②	職員の2/3くらいが
		③	職員の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①	ほぼ全ての利用者が
		②	利用者の2/3くらいが
		③	利用者の1/3くらいが
		④	ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①	ほぼ全ての家族等が
		②	家族等の2/3くらいが
		③	家族等の1/3くらいが
		④	ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	昨年来職員にふれあいの里京田辺の理念を考えようと会議等で話あっているが、なかなか決定しない。現在は法人本体の理念を基本としている	○	事業所独自の理念を作り上げたいと考えている。管理者が決めるのではなく職員全体で活きた理念を掲げたい
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者さま中心の医療・看護・介護という点は共通できていると思う		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の方にはアプローチ出来ていない	○	理念を作り上げアプローチしていきたい
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	同じ敷地内の方や、地域の方とあいさつや立ち話しなどはしているが、立ち寄りして頂く事はない		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校の運動会や音楽会に呼んで頂いたり、小学2年生の社会活動の実習に来ていただいたりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	話し合いはもった事はない		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議等で公表し、それぞれ考えてもらっているが、具体的な取り組みは出来ていない		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業報告や事故報告など行い地域の中で私たちに何が出るか、地域に何をしてもらうかを話し合っている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	頻繁な行き来はないが、市役所に行った時は担当者に声を掛けコミュニケーションは図れている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	時間が取れず、話し合いには至っていない		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する資料等は置いているが、全体の中で学ぶ機会は作っていない		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	カンファレンスを重ね納得のいく話し合いが出来ていると思う	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	御契約時に苦情窓口の事をお知らせしている	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	面会時などに報告をしている。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	御契約時に苦情窓口の事をお知らせしている。苦情等が寄せられた時は朝礼や申し送りノートで職員に知らせ対応を考えている	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	通常は規定人数での配置であるが、行事や外出などのある時は介護リーダーと話しあい人数調整は行っている	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	今年は職員の定着率が悪く安定しなかった。退職の申し出があった時は話し合いを持ち慰留に努めたが、離職する職員が多かった。移動はなかった	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>教育委員を設置し、年間の教育計画を立て参加してもらった。来年度は法人全体の教育プログラムも確立されることからより一層研修の機会が増えると思う</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム、小規模協議会に職員に参加してもらい交流を図る機会を作った</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>なんでも言える職場の雰囲気作りには努めているつもりではあるが、具体的に何かに取り組んでいる事はない</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>事業所ごとの目標を掲げ、達成時には報奨金が出るシステムができた。支給された報奨金は各職員に配分している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>御本人との話で困っている事などの話はせず、まずコミュニケーションを取るよう心がけ、その会話の中で御本人が望む事、困っているであろうことを受け止めている。御家族からは御本人の困っている事を時間を掛けて聞くようにしている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを取り、御本人、家族の希望や困っている事の見極めを行っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に徐々に馴染めるように進めるということには行っていない。事前によく話し合いサービスを開始している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	相手の思いに添う介護を心がけ、不安を抱えている利用者様の話をゆっくり聞き、楽しく過ごしている時間は一緒に楽しんでいる。昔の話や子供の頃の話など教えて頂き、職員は学ぶ事が多い		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御本人同様家族の思いは様々に揺れる事が多い。お世話になっているからと遠慮がちな思いをくみ取りいつでもなんでも言って下さいとお話している		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族関係が悪い方であっても細かく生活状況を報告しているが、家族に無理をしてまで面会はお願いしない。これまでの関わりを理解し、笑顔で来られるときに来て下さいとお願いしている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と一緒に自宅への訪問や誕生日などに昔なじみのある場所へのお出かけなどを計画している。職員が本人の思いを知る良い機会でもありと考えている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	長い共同生活で力関係の上下や、新しい方への関わりなどで苦勞する事が多い。職員が間に入りうまく調整するよう努力している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方と連絡を取り続ける事はあまりない。連絡事項があるときにその後の様子などはお伺いし、相談があるときは聞かせて頂きますと言葉をかける		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なかなか自分の思いは言ってもらえないが、会話の中で何を望んでおられるのかを把握し、実行できるように努力している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話の中や、家族にお聞きしなじみの物や場所などの情報を得るようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	どうしてもお世話する側の都合に合わせてしまう所が多い。昨年は出来ていたことができなくなってきたり、身体的に無理になって来ている事が増えてきている。そんな中で何ができるかを施行錯誤している	○	一日がマニュアル化してきている部分もあり、見直しや個別ケアというものを考えていきたいと思っている
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者がご本人の思いを会話の中でお聞きし、家族に伝えている。ご本人の残された力や楽しく出来ることにスポットをあてられるようなケアプランにしたいとかがえている	○	担当者会議に出来るだけ担当者を参加させて家族の思いを直に聞いてもらいたいと思っているが、勤務の都合で人が取れないことが多い。時間を取る工夫をしていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン担当者を決めて取り組んでくれているが、なかなか職員全体に浸透しない。ケアマネとしての業務も多く、ケース会議が確実に取れない。認定更新ギリギリに見直しをかけている状態である	○	即時対応がなかなかできず苦慮している。時間の取り方を考えたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやメモに張り出すなどの工夫はしているが、なかなか浸透出来ない	○	色々な取り組みを考えて実践はしてくれているが、なかなか浸透していかない。労働力を増やさず情報の共有が出来ないか日々考えている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会時間や外出などの制限はなく、自由に家族の都合に応じて柔軟に対応している		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進員会で消防署や民生委員、市役所職員、地域の方と一緒に避難訓練をしたりしながら協力して頂いている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	福祉用具事業所などに協力をしてもらい身体レベルにあったベッドや靴などの情報提供や販売などのアドバイスを頂いている。待機情報などをケアマネさんにお知らせしている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ必要な方はいないので権利擁護について協働している事はない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	診療所や病院の情報を家族にお伝えし、かかりつけにするかを決めて頂いている。認知症の方の受け入れが難しく断られたり、退院を迫られるケースは多い		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>母体のなら東病院の神経内科の医師と連携ができており、家族の同意を得て診察をお願いすることもある。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>小規模の看護師が主に関わってくれているが、医療連携の訪問看護師にも相談や指示をもらっている</p>	○	<p>医療連携している訪問看護ステーションとの連携をもっと密にしていく必要があると考えている。情報の共有や定期的な訪問などを検討中である</p>
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院になるときにご本人のこれまでの生活スタイルや思いなどは出来るだけ鼓膜伝えるようにしているが病院でそこを主張するのは難しく認知症が進行してしまうケースが多い。主治医、家族とよく相談し、早期の退院が出来るよう努力している</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族、主治医と話し合いを重ね、どう過ごしてもらうかを繰り返し確認しながら進めている。</p>	○	<p>急な状態変化に備え現在健康な方でもどうするかを話し合い文書にしておくことが必要と考える</p>
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化するとどうしても医療が優先になり、ご本人の思いが後回しになりがちなので主治医に安心して終末期を迎えられるかを一緒に考えてもらうよう話し合いを重ねている</p>	○	<p>お世話する側のケアのレベルをもっと上げないと終末期を支えていけない。研修や話し合う機会を増やしていきたい</p>
<p>49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>情報提供は行いが、住みかえのダメージを考えられるご家族はほぼないと感じる。入居してこられた方の混乱に関しては家族と繰り返しお話ししている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	対応や声かけの方法などを認知症勉強会で話あったりしている	○	言葉使いやなれ合いの態度など注意することもあり、挨拶がなれ合いのきっかけに感じます。研修項目に入れている
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	こうしてはではなく、どうされますかとお聞きするよう関わっている。言葉にうまく表せられない方には選択したり、答えを言いやすい質問をするよう指導している	○	言葉での説明では理解出来ていると思うが、実践に活かされていないと感じる職員もいる。繰り返しの指導が必要
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞いてその日を決める事は出来ていない。お天気や気分を外出やドライブに出かけるなどの支援は行っている		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理容の方が細かく好みを聞いてくださり、ご本人の希望に沿った髪形にしてくださっている。外出の時は何を着ていくか本人に選んでもらい、楽しく外周と楽しんでもらえるような工夫をしている		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おひとりおひとりが楽しく出来る事をして頂き、食事を楽しんで頂けるよう工夫している。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	望む物を提供しすぎる所があり、現在おやつや食事内容を見直している。皆様の満足出来る食事を検討中である。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレのサインを見逃さず、トイレで排泄できるよう関わっている。夜間については睡眠を優先している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴拒否や入浴した事を忘れて何回も希望される方についてはその都度声かけや目に見える工夫を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	今までの就寝習慣を考慮し、無理やり寝てもらうことをせず、静かに眠りにつけるような関わりを行っている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人の思いや望んでおられる事を知り、楽しくできる事を一緒にするケアをしている	○	その人を知る。思いを理解して関わるというケアを目指しているが、全体に浸透しているとは言えないので学習会や研修が必要
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で使える方については所持して頂いているが、お金の計算が出来なくなってきた方やお金を持つことで不穏になれる方もいるので個々にあった支援をしている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日に急に出かける事は難しいので、その方の望みに添えるように計画を立て外出の支援を行っている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と話し合い計画を立て一緒に外出する機会を作っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が望むときに電話をかける事は制限はしていない。電話を本人がかけることで家族のストレスになる時は職員が家族の代わりになって電話を受けることにしている	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はないのでいつでもお越し下さいとお話している。来られた時はその時の雰囲気ですぐお話しされたり、リビングで過ごされたり自由に過ごして頂いている	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の資料をおいていつでも読めるようにはしているが、正しい理解や具体的な勉強などは行っていない	○ 健和会で身体拘束廃止委員会があるので議事録や資料を学習する必要があると感じている
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室には鍵をかける事をしていないが、たびたび利用者様が道路まで出て行かれる事が続き駐車場の門を年明けより閉めている。鍵はかけず簡単には開くようにはなっている	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	外に出て行かれる時はさりげなく付き添い、本人の自尊心を傷つけないよう配慮している。時間を決めて人数確認を行っている	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物は目につかないように収納している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員を設置し、避難訓練を行っている。誤薬については看護師と相談し、2人での確認ができるよう工夫した。	

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	すべての職員に行えていない。今後の課題である	○	緊急時の対応の研修に職員を参加させ一定の知識を学んでもらう予定
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進員会で消防署や民生委員、市役所職員、地域の方と一緒に避難訓練をしたりしながら協力して頂いている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	担当者会議でご本人の状態を詳しくお話している。そのうでご本人が出来る事、することで起こるかもしれない事故の可能性などを話家族の思いを確認する		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りノートやメモに張り出すなどで情報の共有を行っている。看護師への報告を徹底し対応している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服用されている薬の作用を記入したファイルを作成し、配薬時に確認するよう指導している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	細かな水分摂取に努め、便秘の解消に取り組んでいる		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員の中に歯科衛生士がおり、口腔ケアの勉強会を行った。訪問歯科の協力もあり、口腔の支援が行えている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理委員を設置し、会議を行いメニューの見直しを行っている。食材の宅配業者との話し合いも定期的に行い栄養過多にならない注意と満足感のある食事提供が出来るよう努力している		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止委員会の資料や伝達文書などがあれば朝礼などで伝達している		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	業務の中に調理器具の定期的な消毒を組み込み衛生的に使用できるよう管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前や外柵に花を植えたり畑を作ったりして温かい雰囲気を出しているが通おりより外れているので場所が分かりにくい		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は柔らかい物にし、入ると電気が点くようにしてある。季節の飾り物を飾ったりしている		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机の配置を変えたり仲良し同士と一緒に座れる配慮は行っている。ソファなどを置いて休める様にしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>御自分で使っておられたものは出来るだけ持ってきて下さいとお願いしている。職員が自宅と一緒に行き御本人と相談して持ってくることもある</p>	
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>空調は24時間換気になっているが、定期的に窓を開け換気を行っている。</p>	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フラットな設計で安全に配慮している。</p>	<p>○ トイレに手すりが設置していないので今後設置予定</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>混乱が見られる時はさりげなく声を掛け失敗のないような配慮を行っている</p>	
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>駐車場で日光浴をしたりレクリエーションをしたりして利用している</p>	